

# 平成30年度 事務事業評価資料(一次評価結果)

# 【評価シートの見方】

No.	事務事業名	事業実施課	事業区分	事業概要	概算コスト(単位:千円)				主な活動指標				主な成果指標				必要性	有効性	効率性	公平性	一次評価結果	評価理由
					27年度	28年度	29年度	30年度	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	指標名	27年度	28年度						
1	評価対象となる事務事業名が記入されています。	事業を実施する局名・課名が記入されています。	A	○事業開始年度 昭和 年度 【概要】 【対象者】 【具体的な活動内容】 事業開始年度や概要など、事業の主な内容が記入されています。	B	[概算コスト] 0 (内訳) ・決算額 ・人件費 0 (0.00人)	[概算コスト] 0 (内訳) ・決算額 ・人件費 0 (0.00人)	[概算コスト] 0 (内訳) ・決算額 ・人件費 0 (0.00人)	[概算コスト] 0 (内訳) ・決算額 ・人件費 0 (0.00人)	C	[目標値] [実績値] <達成率>	[目標値] [実績値] <達成率>	[目標値] [実績値] <達成率>	[目標値] [実績値] <達成率>	F	G	H	(理由) 一次評価結果の理由が記入されています。				
根拠法令等		事業が目指す施策への効果			財源内訳(単位:千円)				次に主な活動指標				次に主な成果指標				評価の視点		理由			
事業の根拠法令等が記入されています。		事業開始年度や概要など、事業の主な内容が記入されています。			D				E				F				G		G			
類似事業		対象者や目的が同一または類似の事業が記入されています。			コスト内訳(単位:千円)				概算コスト/参加者数等				成果指標の指標式				事業手法		事業の統合			
直近の改善状況		直近の改善状況			項目 コスト 項目 コスト 項目 コスト				イベントや冊子の作成事業などの単位当たりのコスト				成果指標で、特に説明を要する事項について記入されています。				事業手法		事業の統合			
課題等		事業を推進するうえでの課題等が記入されています。			予算(決算)額の主なコストの内訳が記入されています。				その他必要な事項				その他、説明が必要な事項について記入されています。				コスト削減の工夫		受益者負担の見直し			

## A~Hの見方

### A

事業区分が記入されています。  
【市民参画】  
・市民参画を図るもの。  
【相談】  
・市民からの相談に対応するもの。  
【許認可・検査】  
・許認可や検査などを実施するもの。  
【監視・規制】  
・監視、規制や指導などを実施するもの。  
【助成・育成】  
・市民の福祉向上や市の活性化のために補助金等の交付などを通して助成・育成等を図るもの。  
【イベント】  
・イベントの実施や実施を支援するもの。  
【啓発・広報】  
・広く市民等に情報を伝達し、啓発や広報を図るもの。  
【調査・研究】  
・事業の実施等に向けて調査・研究するもの。  
【社会基盤・都市施設基盤】  
・インフラの整備を図るもの。  
【施設維持・管理】  
・インフラの維持を図るもの。  
【市民サービス】  
・市民の利便性を図るもの。  
【内部管理】  
・行政内部の管理業務を行うもの。  
【その他】  
・上記のいずれにも該当しないもの。

### B

財源について、市単、国・県補助、特会、特会(国・県補助)等が記入されています。  
※「国・県補助」は、国や県から補助があることを表し、「市単」は、国や県から補助がないことを表しています。また、「特会」は一般会計以外(特別会計や企業会計)であることを表しています。

### C

直接経費に人件費を加えた総事業費が記入されています。  
※30年度の数値は、年度当初における予定数値です。  
※人件費はその年度の平均給与額を基に計算しています。

### D

財源の内訳が、国県、市債、一般、その他の区分ごとに記入されています。  
・国県：国・県からの支出金額  
・市債：銀行などからの借金額  
・一般：一般財源の額  
・その他：その他(使用料等)の収入額

### E

主な活動指標と、その目標値・実績値が記入されています。  
※活動指標とは、事業を実際に執行した際の活動実績を表した数値です。  
30年度の数値は、年度当初における予定数値です。  
※目標値の設定がなじまない事業(例：救急患者の数など)については、実績値を目標値としています。

### F

主な成果指標と、その目標値・実績値が記入されています。  
※成果指標とは、行政活動を実行することにより得られた成果を明確にした数値です。  
ただし、一部については数値化が困難なため、数値では記入していません。  
※30年度の数値は、年度当初における予定数値です。  
※目標値の設定がなじまない事業については、活動指標と同様に実績値を目標値としています。

### G

評価の視点ごとの評価及びその理由が記載されています。

必要性	事業の必要性	◎市民ニーズや社会経済情勢の変化に照らして、必要性は高まってきている	効率性	事業手法	◎事業手法(民間委託など)の検討は十分されている
		○必要性はあまり変化していない			○事業手法の見直しも考えられるが、おおむね妥当である
	市の関与	△必要性は低くなってきている		事業の統合	△事業手法の見直しの検討が必要である
		◎市以外に実施主体はない	◎類似事業との統合や関連事業との連携は実施済み又はできない		
	○市が実施するのが望ましい	△市が実施する必然性は低い		コスト削減の工夫	○統合などの検討も考えられるが、おおむね妥当である
	△市が実施する必然性は低い	◎成果指標(又は活動指標)の達成状況は順調に推移している			△統合などを実施することが必要である
有効性	指標の達成度	◎成果を向上させるための事業見直しは十分にできている		受益者負担の見直し	◎事業手法及び事業の統合のほか、コスト削減を図る工夫は充分にできている
		○おおむね順調に推移している	◎受益者負担は適切である		
	△順調ではない	◎見直しの検討も考えられるが、おおむね妥当である		○コスト削減を図る工夫の検討も考えられるが、おおむね妥当である	
	成果向上への見直し	△見直しをすることが必要である		△コスト削減を図る工夫を実施することが必要である	
		◎上位施策の目的実現に、十分効果がある		△受益者負担の見直し	
	施策効果	○上位施策の目的実現に、効果があると考える		○見直しの検討も考えられるが、おおむね妥当である	
		△上位施策の目的実現に、あまり効果がない		△見直しをすることが必要である	

### H

事業実施課による一次評価結果が記入されています。  
【A 継続】  
・引き続き改善・工夫に努めながら継続する  
【B 見直し】  
・事業の実施方法等を見直す必要がある  
【C 統合】  
・事業の統合を検討すべき  
【D 縮小】  
・事業規模を縮小する必要がある  
【E 休止】  
・制度は必要だが、事業を休止すべき  
【F 廃止】  
・制度自体を廃止すべき  
【G 終了】  
・事業の終期に合わせて、終了すべき